



のぎきじま しゅうらくあと 8 野崎島の集落跡

8. Remains of Villages on Nozaki Island

「野崎島の集落跡」は、潜伏キリシタンが信仰の共同体を維持するに当たり、どのような場所を移住先として選んだのかを示す5つの集落のうちの一つである。

19世紀、外海地域から各地へ広がった潜伏キリシタンの一部は、沖ノ神嶋神社の神官と氏子しか人が住んでいなかった野崎島を移住の適地として選んで移住し、神社の氏子として信仰をカモフラージュしながら、ひそかに共同体を維持した。

解禁後はカトリックに復帰し、野崎島の中央部と南部の2つの集落にそれぞれ教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



野崎島の北端に位置する沖ノ神嶋神社は、神道の霊地であり、一般の人々が生活を営むことはできず、わずかに島の中央部東岸の野崎集落に神官の屋敷ほか20戸があるのみであった。



撮影：池田勉

野崎島の中央に位置する野首集落跡には、潜伏キリシタンの指導者の屋敷跡があり、禁教期には、様々な宗教行事がひそかに行われていたと考えられている。その近くには、解禁後に初代野首教会堂が建てられ、後にその傍に、現在の教会堂(旧野首教会)が建てられた。